
令和5年度 奈良市市民意識 調査結果（概要版）

令和6年3月

奈良市

目次

調査実施の概要.....	1
1. 奈良市での生活について（問1～4）.....	2
2. 日ごろの生活について（問5～8）.....	4
3. 市政について（問9～14）.....	6
4. 奈良市への愛着や誇りについて（問15～18）.....	10
5. 持続可能な社会について（問19～22）.....	12
6. 地域と社会教育・大学について（問23～25）.....	14
7. 地域の多様性と寛容性について（問26～27）.....	15
8. インターネット回答について.....	16

〈 調査実施の概要 〉

1 調査の目的

市民の皆様にご日々の生活で感じていることや市政についてのご意見などをお尋ねし、これからの市政のあり方を考えていくにあたっての基礎資料とするため、奈良市民意識調査を実施しました。

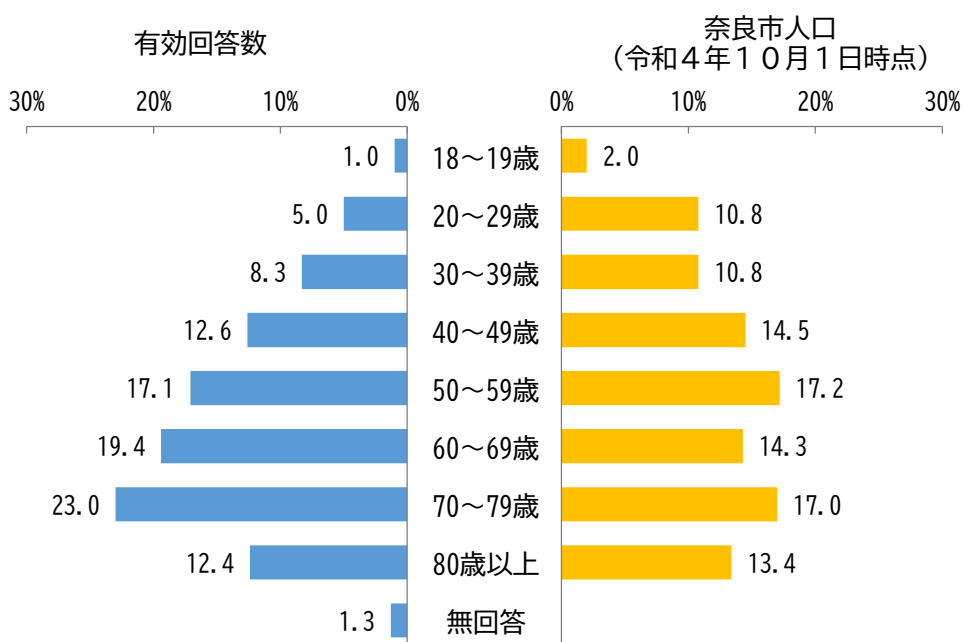
2 調査について

- (1) 調査地域 奈良市全域
- (2) 調査対象 奈良市内在住の18歳以上の男女各1,500人 計3,000人
- (3) 標本数 3,000人
- (4) 抽出方法 住民基本台帳から層化無作為抽出
- (5) 調査方法 配布：郵送、回収：郵送及びインターネット回答
- (6) 調査期間 令和5年11月15日(水)～12月15日(金)
(ただし期間後に到着した調査票も12月22日到着分まで集計対象とした)

3 回収状況

	有効回答数(人)	有効回収率(%)
合計	1,271	42.4
郵送	947	31.6
インターネット	324	10.8

4 有効回答数と奈良市人口の構成割合の比較



1. 奈良市での生活について（問1～4）

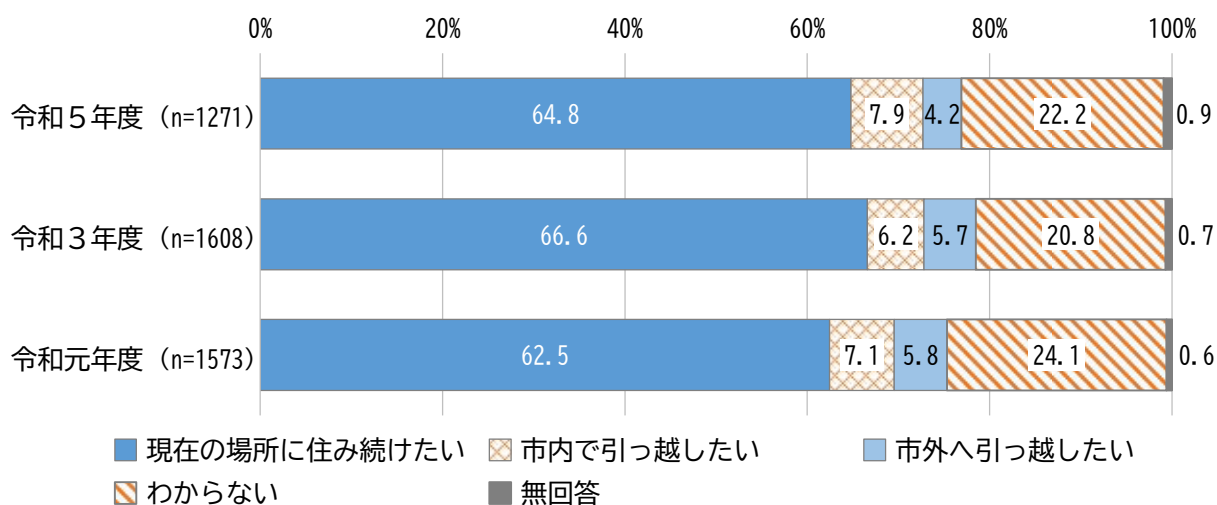
テーマの結果概要

- 奈良市の居住年数は、「51年以上」が22.1%と最も高く、31年以上の方が59.6%と約6割を占めています。（問1）
- 現住所の直前に住んでいたところは、「奈良市内の別の地域」が30.4%で、約6割は市外。（問2）
- 転居のきっかけは、「住宅・マンションの購入」が33.8%と最も高く、次いで「結婚」が23.7%となっています。（問2-1①）
- 現住所を転居先を選んだ理由は、「交通（通勤・通学・買い物等）の便がよいから」が40.0%と最も高く、次いで「住まいの周辺が静かだから」が26.7%となっています。（問2-1②）
- 住んでいる地域が住みやすいかについて、「住みやすい」（44.7%）と「どちらかといえば住みやすい」（36.8%）の合計が81.5%となっています。
- 64.8%の方が「現在の場所に住み続けたい」と回答し、4.2%の方が「市外に引っ越したい」と回答しています。（問4）
- 市外へ引越する場合のきっかけは、「子どもの成長・独立」が18.5%、「退職・廃業」が16.7%となっています。（問4-1①）
- 転居先として奈良市を選ばない理由は、「交通（通勤・通学・買い物等）の便が良くないから」が42.6%と最も高く、次いで「日ごろの買い物等が不便だから」が31.5%となっています。（問4-1②）

Pick Up 1：居住する地域の住みやすさの状況（問4）

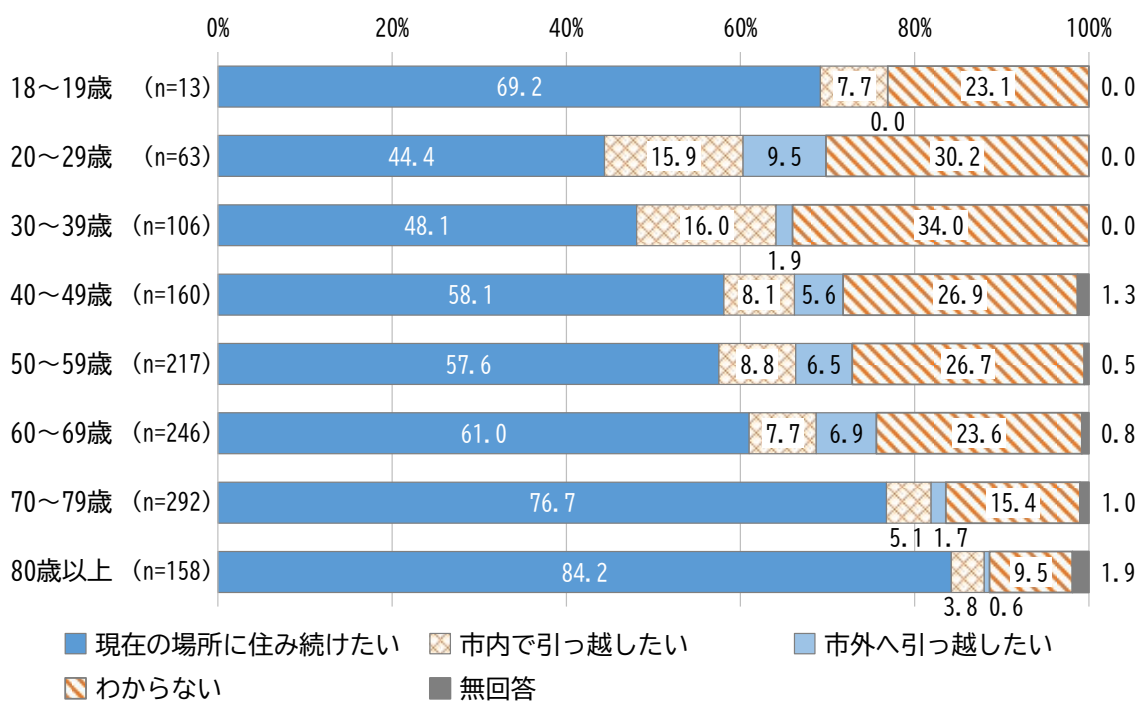
（1）単純集計

これからも住み続けたいかについて、「現在の場所に住み続けたい」が64.8%と最も高くなっていますが、令和3年度調査と比べるとやや減少しています。



(2) クロス集計 年齢（10歳区分）別

年齢別では、概ね年齢が上がるほど、「現在の場所に住み続けたい」が高くなっています。



※18～19歳はサンプル数が少ないため参考値

2. 日ごろの生活について（問5～8）

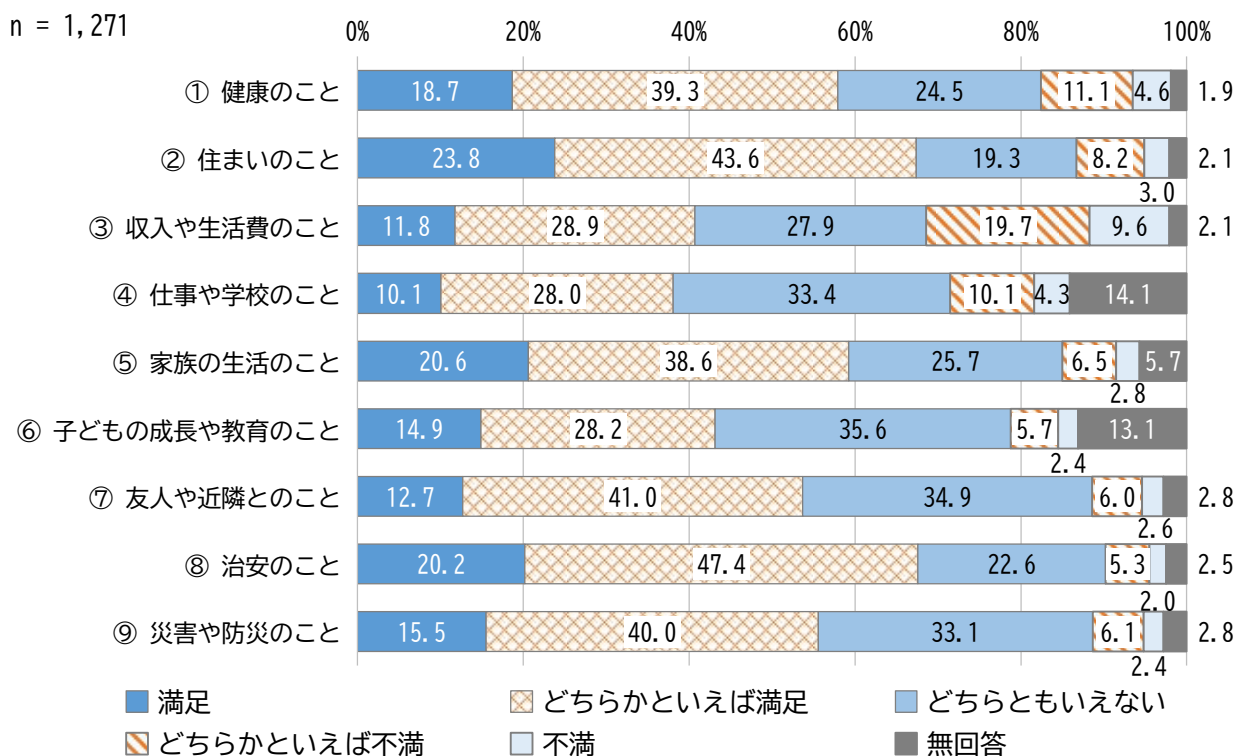
テーマの結果概要

- 今の生活の満足度について、「満足」と「どちらかといえば満足」と答えた割合は、「治安のこと」が67.6%と最も高く、次いで「住まいのこと」が67.4%となっています。一方、「仕事や学校のこと」が38.1%で最も低くなっています。（問5）
- 今の生活全般の満足度は、「満足」（18.6%）と「どちらかといえば満足」（51.8%）の合計が70.4%となっています。（問6）
- 相談ごとがあるときの相談相手について、「家族や親族」が80.5%と最も高く、次いで「隣近所の人や知人・友人」が32.3%となっています。（問7）
- 休日の余暇を過ごすのにふだんよく行く場所について、「奈良市内」が87.4%と最も高く、次いで「大阪市」が27.8%、「大和郡山市」が26.8%となっています。（問8）

Pick Up 1：今の生活の満足度（問5）

（1）単純集計

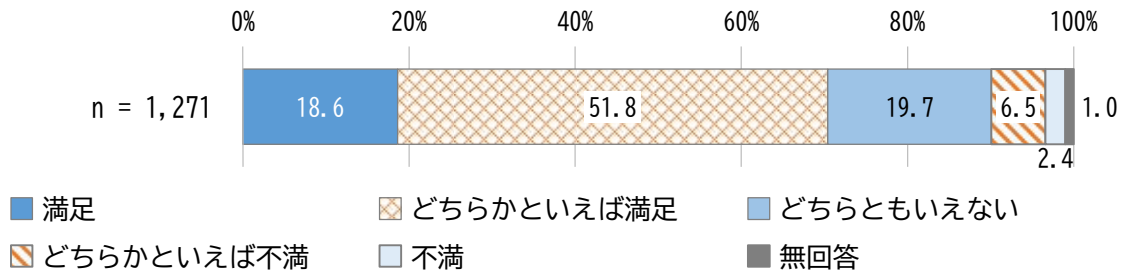
今の生活の満足度について、「満足」と「どちらかといえば満足」の合計は、「⑧治安のこと」が67.6%と最も高く、次いで「②住まいのこと」が67.4%となっています。一方、「④仕事や学校のこと」が38.1%で最も低くなっています。



Pick Up 2 : 今の生活全般の満足度 (問6)

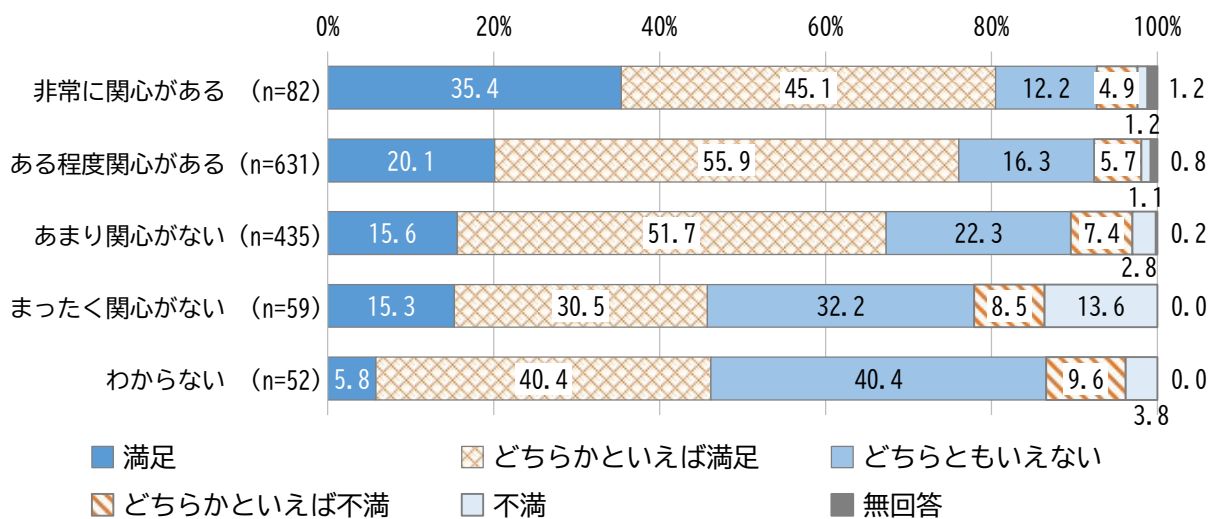
(1) 単純集計

今の生活に満足しているかについて、「満足」と「どちらかといえば満足」の合計が70.4%となっています。



(2) クロス集計 まちづくりの取組への関心別

まちづくりの取組への関心別では、関心がある層ほど「満足」と「どちらかといえば満足」の合計が高くなっており、非常に関心があるで80.5%、まったく関心がないで45.8%となっています。



3. 市政について（問9～14）

テーマの結果概要

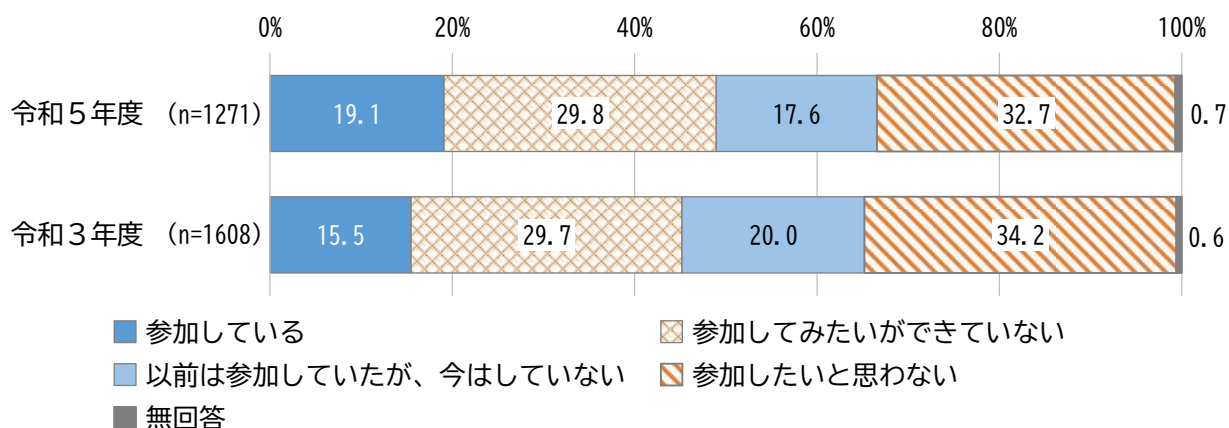
- 市政への関心は、「非常に関心がある」（10.1%）と「ある程度関心がある」（56.7%）の合計が66.8%となっています。（問9）
- まちづくりの取組への関心は、「非常に関心がある」（6.5%）と「ある程度関心がある」（49.6%）の合計が56.1%で、令和3年度調査と同水準となっています。（問10）
- まちづくりの取組への参加については、「参加している」（19.1%）と「参加してみたいができていない」（29.8%）の合計が48.9%となっており、令和3年度調査と比べると、「参加している」が増加しています。（問11）
- 参加しているまちづくりの取組や、今後参加してみたいまちづくりの取組は、「自治会・町内会活動」が37.9%と最も高く、次いで「環境美化活動」が27.8%、「祭り等の伝統行事」が25.7%、「避難訓練等の防災活動」が24.7%となっています。（問12）
- まちづくりの取組に参加していない主な理由は、「仕事で都合がつかない」が34.6%と最も高く、次いで「活動を知らない」が26.4%、「体力や健康の問題」が23.7%となっています。（問13）
- 奈良市の取組で評価するものについては、「文化遺産」が40.5%で最も高く、次いで「消防・救急」が31.9%、「生活・環境衛生」「住環境」「利水・治水対策」が31.7%。（問14）
- 一方で今後さらに力を入れるべき重要だと思うものについては、「医療と健康」が78.0%で最も高く、次いで「消防・救急」が76.8%、「防災対策」が75.1%。（問14）

Pick Up 1：まちづくりの取組への参加状況（問11）

（1）単純集計

お住まいの地域や市内で行われているまちづくりの取組に参加しているかについて、「参加したいと思わない」が32.7%と最も高く、次いで「参加してみたいができていない」が29.8%となっています。

令和3年度調査と比べると、「参加している」が増加しています。

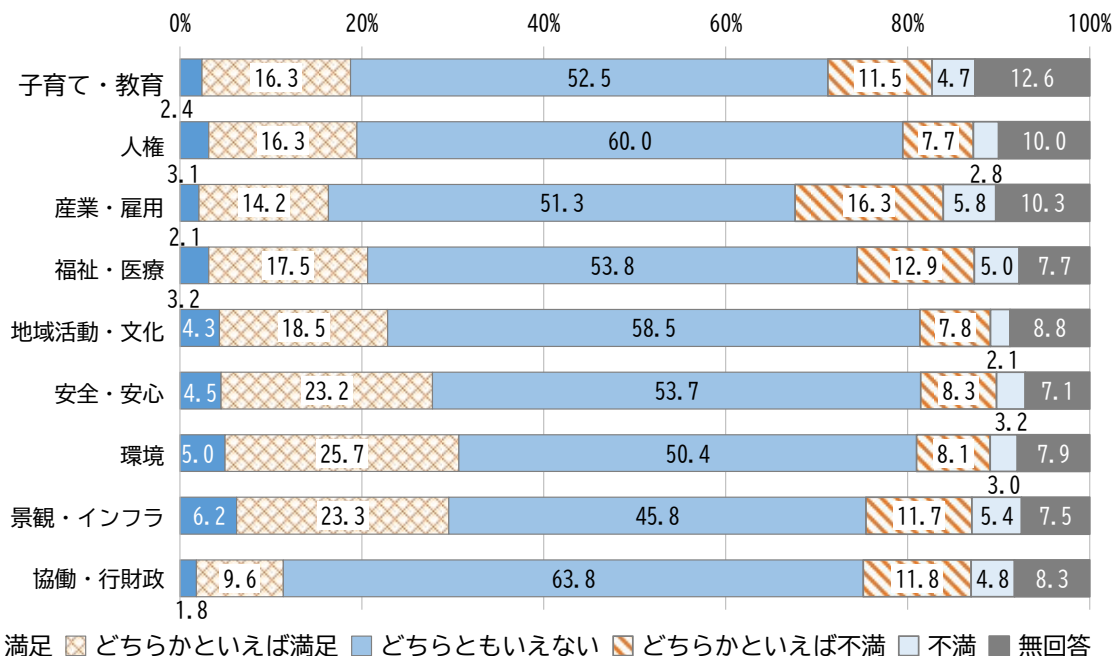


Pick Up 2 : 奈良市の取組で評価するもの (問 14)

(1) 単純集計

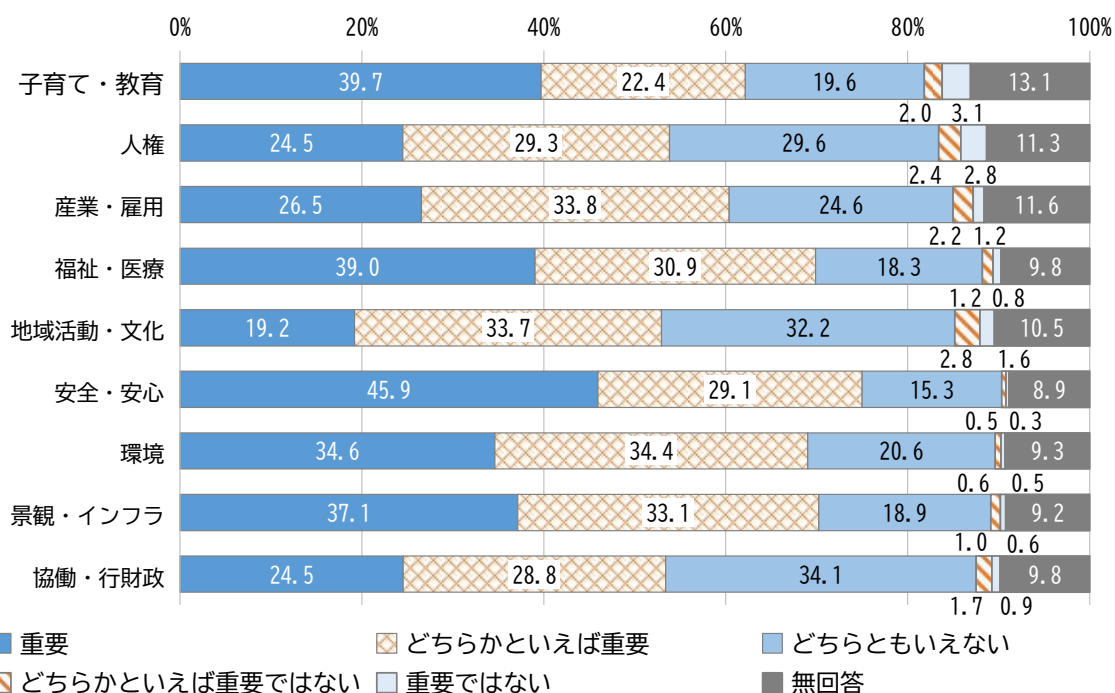
① 9つの分野の満足度 (評価)

評価する項目を9つの分野に分けると、「環境」と「景観・インフラ」について、「満足」又は「どちらかといえば満足」と答えた割合が約3割で高くなっています。



② 9つの分野の重要度

重視する項目を9つの分野に分けると、「安全・安心」について、「重要」又は「どちらかといえば重要」と答えた割合が最も高くなっています。

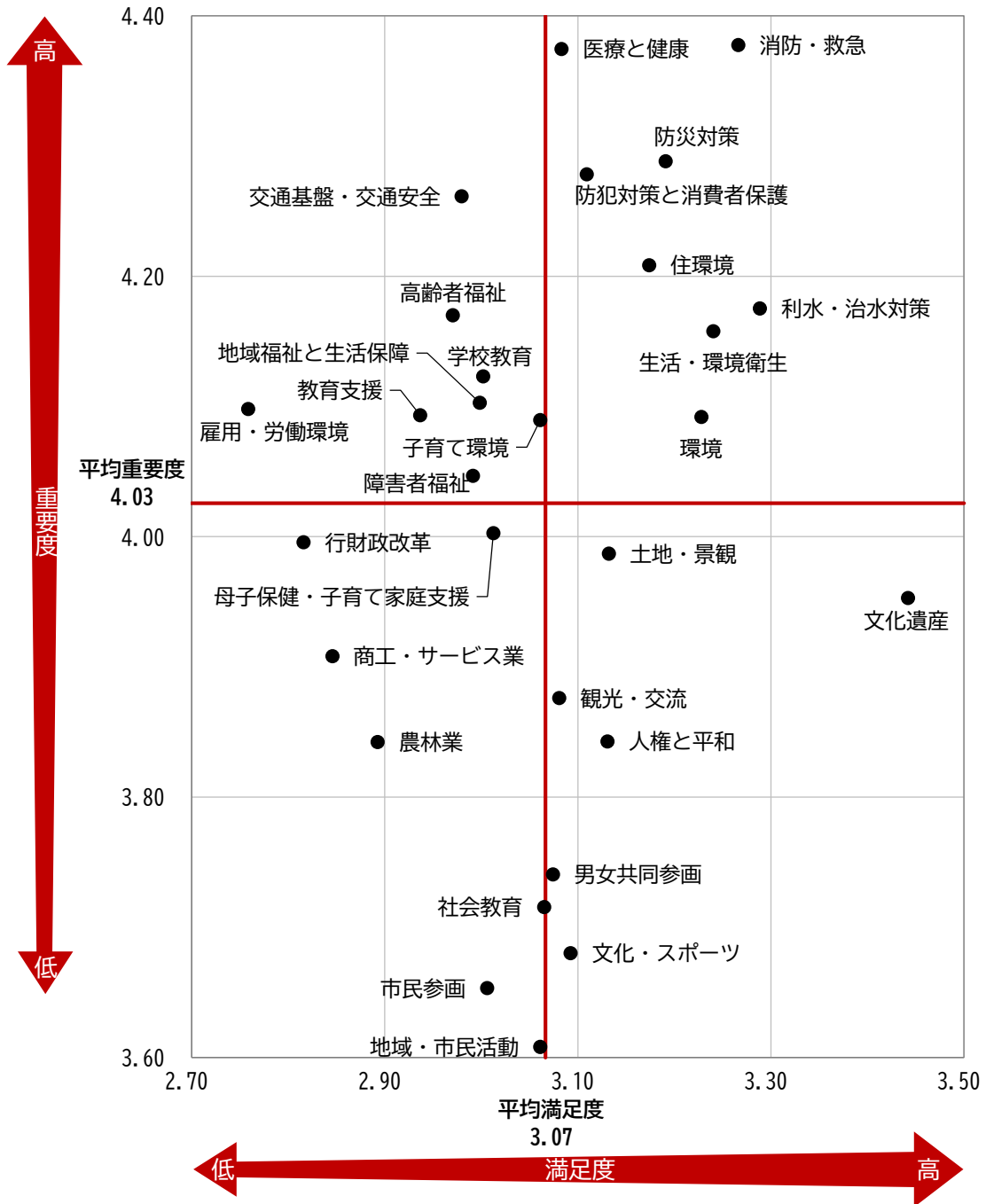


分野	取組
子育て・教育	母子保健・子育て家庭支援
	子育て環境
	学校教育
	教育支援
人権	人権と平和
	男女共同参画
産業・雇用	観光・交流
	商工・サービス業
	農林業
	雇用・労働環境
福祉・医療	地域福祉と生活保障
	障害者福祉
	高齢者福祉
	医療と健康

分野	取組
地域活動・文化	地域・市民活動
	文化・スポーツ
	社会教育
	文化遺産
安全・安心	防災対策
	消防・救急
	防犯対策と消費者保護
環境	環境
	生活・環境衛生
景観・インフラ	土地・景観
	交通基盤・交通安全
	住環境
	利水・治水対策
協働・行財政	市民参画
	行財政改革

※各取組の回答者数を合計して分野ごとの満足度・重要度を算出しました。

(2) 満足度・重要度のクロス集計からみた政策に対する市民意識



4. 奈良市への愛着や誇りについて (問 15～18)

テーマの結果概要

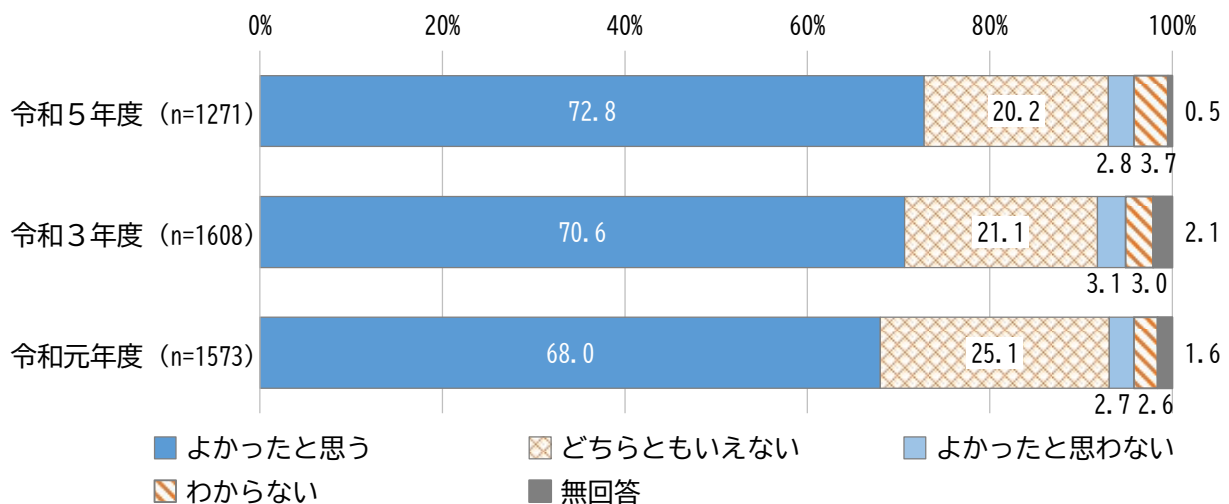
- 奈良市に住んでよかったと思うかについて、「よかったと思う」が72.8%と最も高くなっています。過去の調査と比べると、「よかったと思う」は増加傾向となっています。(問 15)
- 奈良市に愛着を感じているかについて、「強く愛着を感じる」(23.8%)と「ある程度愛着を感じる」(60.0%)の合計が83.8%となっています。過去の調査と比べると、令和元年度と令和3年度は同程度でしたが、今回は令和3年度に比べてやや増加しています。(問 16)
- 奈良市にあてはまるイメージについて、「伝統的」が64.9%と最も高く、次いで「ゆったりとした」が50.3%、「保守的」が47.9%となっています。(問 18)

Pick Up 1：奈良市に住んでよかったと思うか (問 15)

(1) 単純集計

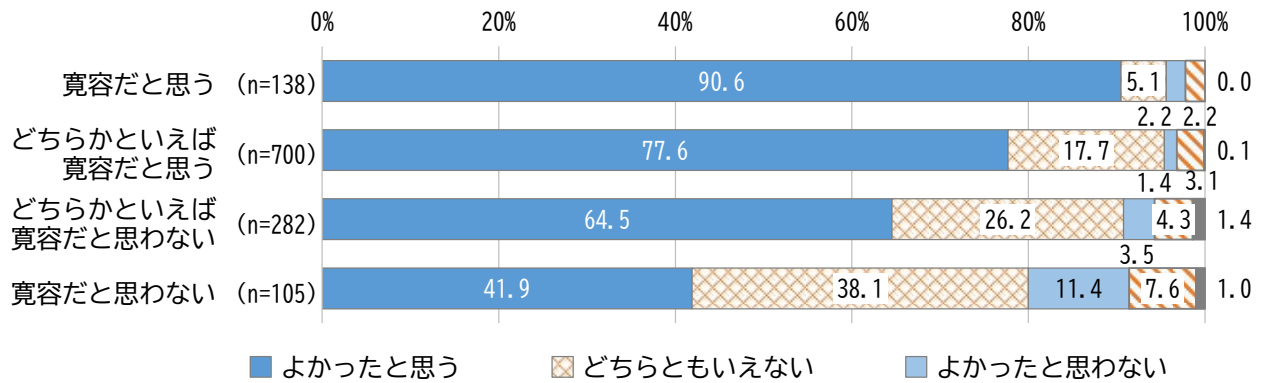
奈良市に住んでよかったと思うかについて、「よかったと思う」が72.8%と最も高くなっています。

過去の調査と比べると、「よかったと思う」は増加傾向となっています。



(2) クロス集計 地域の寛容さ別

地域の寛容さ別では、寛容だと思う層ほど「よかったと思う」が高くなっており、寛容だと思うで90.6%、寛容だと思わないで41.9%となっています。



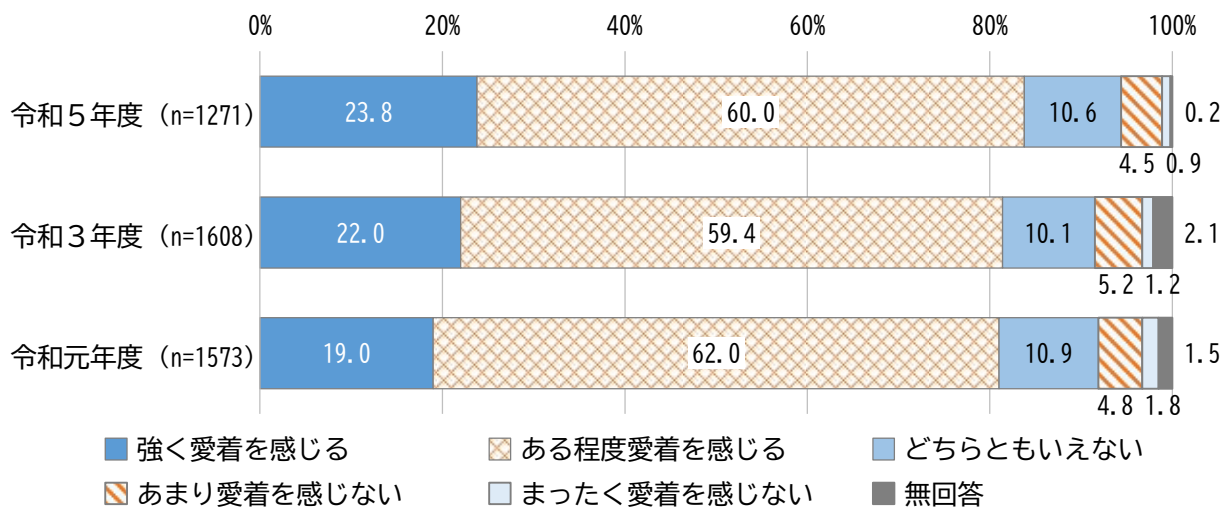
※ ここでの寛容さとは、住んでいる地域が他者との様々な違い（年齢や性別、育った環境、考え方等）に寛容だと思うかを指します。

Pick Up 2 : 奈良市への愛着 (問16)

(1) 単純集計

奈良市に愛着を感じているかについて、「強く愛着を感じる」と「ある程度愛着を感じる」の合計が83.8%となっています。

過去の調査と比べると、令和元年度と令和3年度は同程度でしたが、今回は令和3年度に比べてやや増加しています。また、「強く愛着を感じる」は増加傾向となっています。



5. 持続可能な社会について（問 19～22）

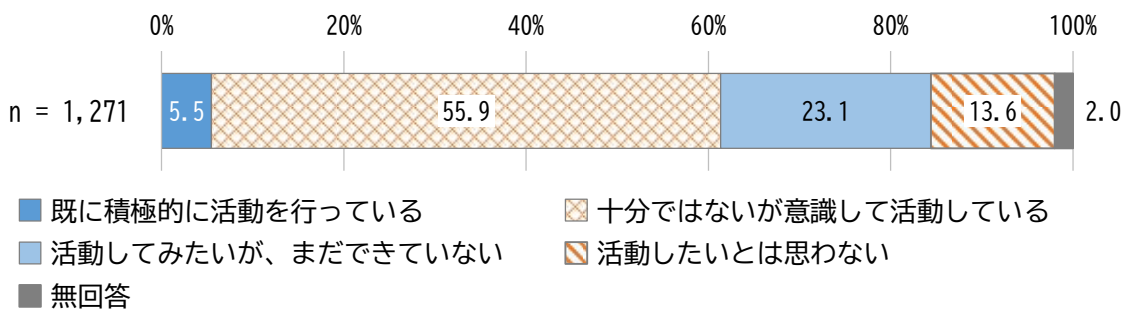
テーマの結果概要

- 環境保全活動への参加は、「既に積極的に活動を行っている」は 5.5%にとどまるものの、「十分ではないが意識して活動している」が 55.9%で最も高く、次いで「活動してみたいが、まだできていない」が 23.1%となっています。（問 19）
- 環境負荷を減らすための取組として行っていることは、「ごみの分別・リサイクル」が 92.8%で最も高く、次いで「使い捨てプラスチックの使用削減（マイボトル・マイバッグ持参等）」が 70.3%、「食品ロスの削減（食べ残しを減らす、不要なものを購入しない）」が 67.1%、「節電・節水等の省エネ」が 66.9%となっています。（問 19-1）
- 活動できていない、したいと思わない理由は、「何をしたらよいかわからないため」が 37.6%で最も高く、次いで「時間的余裕がないため」が 36.7%、「年齢や体調等によりできないため」が 33.0%となっています。（問 19-2）
- 不要品のリユースで実践していることは、「リサイクルショップやリユースショップの利用」が 46.8%で最も高く、次いで「親族・知人等にゆずる」が 46.4%となっています。（問 21）
- 奈良市の「みどり」と聞いてイメージするものは、「山や丘陵のみどり」が 26.4%で最も高く、次いで「寺社仏閣の境内や古墳の史跡等のみどり」が 16.8%、「公園のみどり」が 15.9%となっています。（問 22）

Pick Up 1：環境保全活動への参加（問 19）

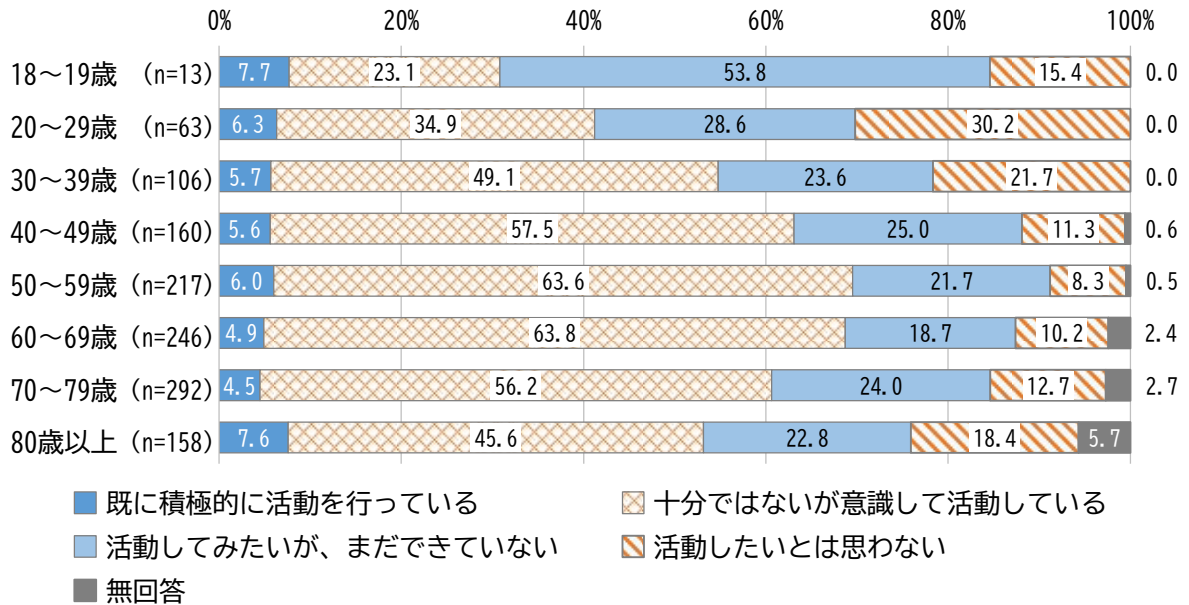
（1）単純集計

環境保全活動への参加については、「十分ではないが意識して活動している」が 55.9%で最も高く、次いで「活動してみたいが、まだできていない」が 23.1%となっています。



(2) クロス集計 年齢（10歳区分）別

年齢別では、いずれの年齢でも「十分ではないが意識して活動している」が最も高くなっていますが、50～69歳で6割台と特に高くなっています。一方、20～29歳では34.9%と低めで、「活動したいとは思わない」が30.2%と高くなっています。また、「既に積極的に活動を行っている」は、いずれの年齢でも4～8%となっています。

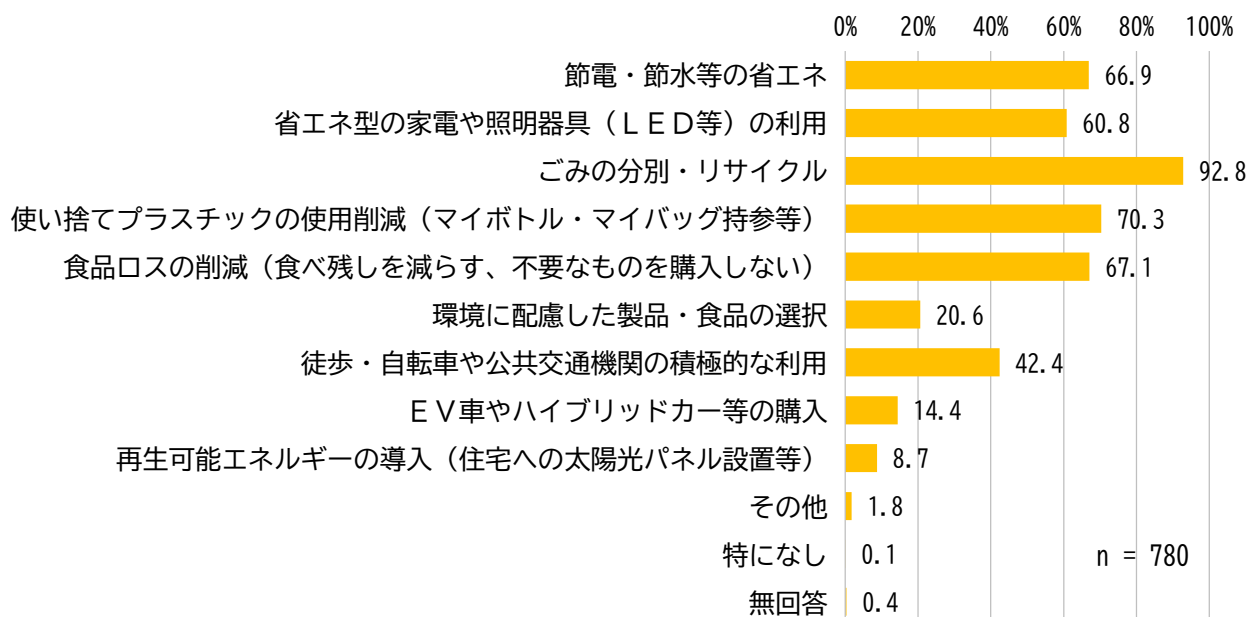


※18～19歳はサンプル数が少ないため参考値

Pick Up 2 : 環境負荷を減らすための取組（問19-1）

(1) 単純集計

環境負荷を減らすための取組として行っていることについて、「ごみの分別・リサイクル」が92.8%で最も高く、次いで「使い捨てプラスチックの使用削減（マイボトル・マイバッグ持参等）」が70.3%、「食品ロスの削減（食べ残しを減らす、不要なものを購入しない）」が67.1%、「節電・節水等の省エネ」が66.9%となっています。



6. 地域と社会教育・大学について (問 23～25)

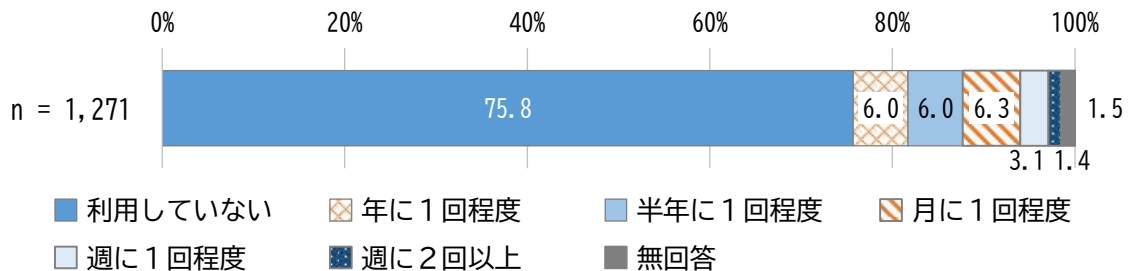
テーマの結果概要

- 公民館の利用について、「利用していない」が 75.8%と最も高くなっており、年に1回以上の利用率は 22.8%となっています。(問 23)
- 公民館を利用しない理由は、「利用する用事がない」が 81.2%で最も高く、次いで「魅力的な講座・行事がない」が 16.3%となっています。(問 23-1)
- 公民館の利用シーンは、「自治会等の会合」が 40.5%で最も高く、次いで「自主グループ・サークル活動」が 37.7%となっています。(問 23-2)
- 奈良市内にある8大学について、「半分以上知っている」が 44.2%で最も高く、次いで「すべて知っている」が 38.2%となっています。(問 24)
- 8大学との関わりは、「関わりを持ったことがない」が 48.3%で最も高く、「家族や親族が通学している(通学していた)」が 15.7%、「大学のオープンキャンパスや学園祭に参加したことがある」が 14.9%となっています。(問 25)

Pick Up 1 : 公民館の利用状況 (問 23)

(1) 単純集計

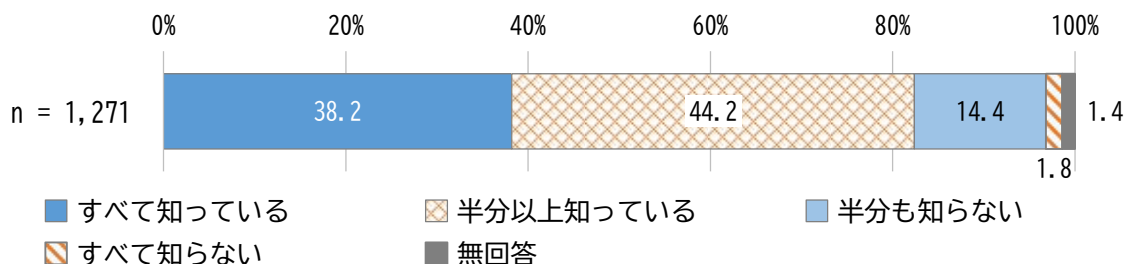
公民館を利用しているかについて、「利用していない」が 75.8%と最も高くなっており、年に1回以上の利用率は 22.8%となっています。



Pick Up 2 : 奈良市内にある大学の認知 (問 24)

(1) 単純集計

奈良市内にある8大学を知っているかについて、「すべて知っている」は 38.2%で、「半分以上知っている」44.2%まで合わせると 82.4%となっています。



7. 地域の多様性と寛容性について (問 26～27)

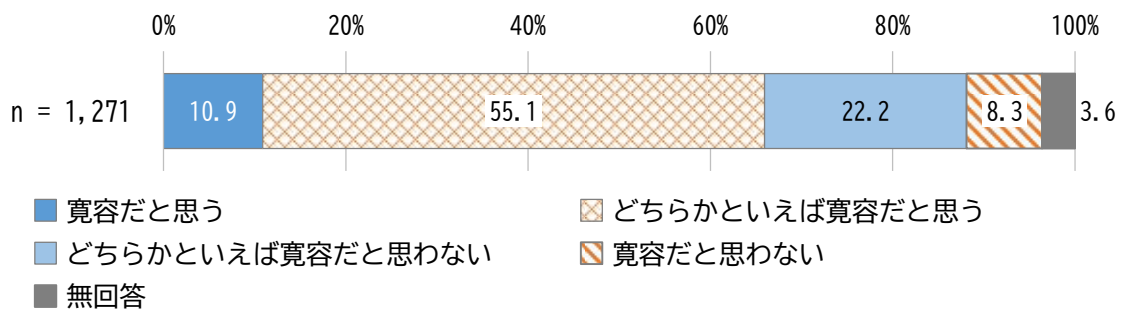
テーマの結果概要

- 住んでいる地域が他者との様々な違いに寛容だと思うかについて、「寛容だと思う」(10.9%)と「どちらかといえば寛容だと思う」(55.1%)の合計が66.0%となっています。(問26)
- 「男性は仕事、女性は家庭」という考え方について、「そう思う」(3.6%)と「どちらかといえばそう思う」(20.5%)の合計が24.1%、「そう思わない」(49.2%)と「どちらかといえばそう思わない」(25.6%)の合計が74.8%となっています。(問27)

Pick Up 1 : 住んでいる地域が他者との様々な違いについて寛容だと思うか (問26)

(1) 単純集計

住んでいる地域が他者との様々な違いに寛容だと思うかについて、「寛容だと思う」と「どちらかといえば寛容だと思う」の合計が66.0%となっています。



8. インターネット回答について

インターネット回答率

25.5%

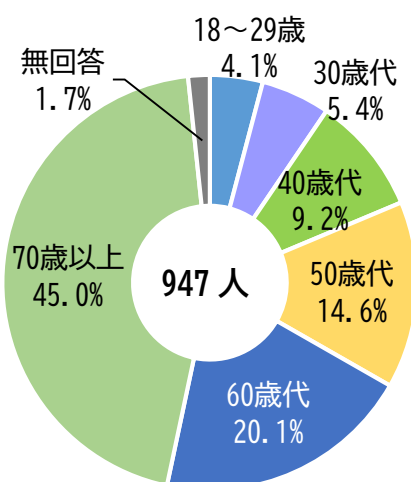
令和3年調査 16.8%

郵送回答者を含めた全回答者1,271人のうち、インターネットでの回答者は324人でした。

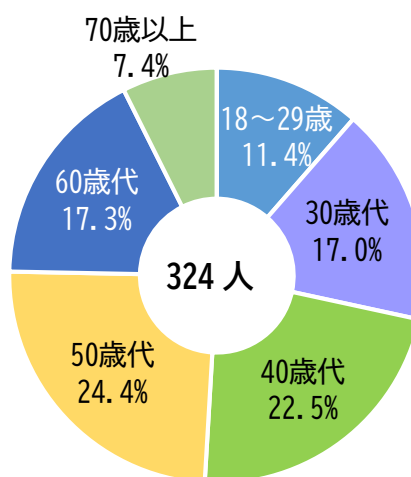
令和3年度調査よりインターネット回答の割合が増加しています。

回答方法別の年代構成は下のとおり。

郵送回答者



インターネット回答者



この冊子に掲載していない情報やより詳しい結果は、「奈良市民意識調査結果報告書」として、奈良市役所総務課内の行政資料コーナーでご覧いただくことができるほか、奈良市ホームページにて公開しています。

【令和5年度 奈良市市民意識調査結果報告書 概要版】

発行：奈良市 総合政策部 総合政策課

〒630-8580 奈良市二条大路南一丁目1番1号

電話 0742-34-4786